

平成29年度 地域懇談会 報告	
日 時	平成29年10月16日（月） 午後2時から4時20分まで
場 所	市役所 304・305号会議室
出席人数	(1) 市 民 67人 (2) 事務局 教育長、教育部長、学務課長、学務課課長、 適正配置推進室職員 計73人
内 容	(1) 教育長あいさつ (2) 学校適正配置の検討趣旨について、教育部長から説明 (3) 学校適正配置基の検討状況について、事務局から説明 (4) 意見交換
意見交換	<p>(意見・質問) (中小路学区)</p> <p>教育的デメリットから学校規模の基準を決めるようだが、実際は、小規模校は割高だから合理化するための統合ではないか。予算の話が出ていないようだが。欧米は100～200人の学校が主流である。日本は世界的にも教育予算が少ない。政府や行政が責任を持って、小さな学校でも運営できるように予算配分してほしい。</p> <p>万が一、統合ということになるなら、小規模校の子どもたちが気まずい思いをしないように、対等な統合となるように配慮してほしい。</p> <p>学区の見直しの際は、大きな学校から小さな学校へ移すように考えてほしい。幼稚園や小学校がなくなると、子育て世帯が住まなくなり、高齢者ばかりになってコミュニティ組織が立ち行かない。ゴーストタウン化する。まちづくりの面からも、学校を残した方がメリットがあると思う。</p> <p>小規模特認校を立ち上げる要件や提案する方法を教えてください。</p> <p>(事務局)</p> <p>欧米の例を挙げていただいたが、国や子どもたちの置かれている環境で、教育への考え方は異なる。海外などの少人数教育の実態は参考にさせていただきたい。日立市の実情として、数や距離だけでは考えられない。総合的に勘案していきたい。</p> <p>2つの学校を統合する場合、どちらかに吸収ということではなく、新しい学校として、個別の学校ごとに考えていきたい。</p> <p>具体的な学区の見直しは、来年度策定する計画の中で、意見をいただきながら考えていきたい。教育の視点から、まちづくりも含めて市が子どもたちの環境を整えていきたい。</p> <p>小規模特認校について、中里小中学校は、近隣校との統合や学区の見直しなどの方法で学校規模の適正化を図ることが難しい環境なので、政策として行っている。市内で複数の地域を特認校とすることは、学区制の原則が崩れてしまうので考えていない。</p> <p>(質問) (中小路学区)</p> <p>新しい学校とはどういうことか。校舎を新しく作るということか。</p> <p>(事務局)</p> <p>校舎の老朽化が激しければ、そのようなこともあるだろう。物理的なこ</p>

とではなく、学校の在り方として、どちらかへの吸収合併ではなく、新しい学校を創るということで取り組みたい。

(教育部長)

学区の中心に学校があればよいが、偏っている場合が多い。1つの方法では当てはめられない。コミュニティの活動区域は小学校区と一致している。学区を変えることは影響が大きい。簡単にはいかないと認識しているが、教育環境として考える一歩として始めていると御理解いただきたい。コミュニティとも協議しながら進めていく。

(意見) (埴山学区)

35人学級では、先生方は過労死寸前。学級の人数を35人としたまま、基準を2学級とすることは反対である。少子化をゆとり教育のチャンスとして、子どもたちにも先生方にもゆとりを与えてほしい。学級数の少ない学校では社会性が育たない、切磋琢磨できないということは、教育的に検証されていない。学級の人数を少なくする方が大切である。

バス通学させることは反対である。子どもが歩いて通える、帰った後、友だちと遊べるということが、公立学校の良いところである。

ホームページなどで検討経過を見ると、「小中一貫」と何度も出てくるが、取り組まれてから期間が短く、6-3制よりも教育効果があると検証されていない。

適正配置の検討に係る予算や労力を、少子化対策に投じてほしい。

(事務局)

全てのクラスに35人、40人が在籍している訳ではない。1クラスの人数についても、アンケートで尋ねたり検討委員会で現場の声を聞いたりしている。その中でも、35人は多いという意見はいただいている。20人以下では学級運営がしにくいという意見もいただいている。国・県の基準があるので、市町村レベルで学級の人数に踏み込むことは難しい。

現時点では、バス通学となるような広域での統合は考えていない。基本方針素案の留意事項でも触れているように、子どもたちの精神的・体力的な負担も考慮していく。

(意見) (会瀬学区)

アンケート、地域懇談会、検討委員会での主な意見として挙げられている「小学校2～3学級、中学校3～4学級」は理想的なものであるが、「小学校2学級、中学校3学級」の基準だと小学校10校、中学校6校が基準から外れる。統合について、教育の観点からどのように考えているか。

(事務局)

考え方の基本がなければ検討することができないので、基準として学級数を出したが、単純に数だけで決めていく訳ではない。現在は、素案の段階なので、しっかりと検討し、まとめていきたい。

(意見) (会瀬学区)

基準を満たしながら、どのように教育するか、どのような方法があるか、いろいろ問題はある。地域の組織としては、子どもたちの安全を支えていきたいと考えている。十分配慮してほしい。

(事務局)

地域の方々には、今後とも子どもたちや学校を支えてほしい。

(意見) (埴山学区)

国では、学級の定数や教員配置など必要に応じて柔軟な対応が望ましいと言っている。学級の人数に踏み込めないということはないのではないか。

(事務局)

教員定数は県が決めて配置しており、茨城県では、国の基準に上乗せして配置している(茨城方式)。教職員の人件費は、国と県で負担しているので、国は「各県の予算の範囲内で柔軟に」と言っている。日立市単独で、学級の人数を減らして教員を雇用することはできないのが実情。

茨城県では、小学校3年生から、36人以上の学級では非常勤講師が配置され2人の教員で授業に当たっている。昨年度から、日立市独自の施策として、特別支援学級の児童が交流学級で過ごす際に35人を超える学級(*)には、市費で非常勤講師を配置している。

(*)「学級」には、通常の学級と特別支援学級の2種類があり、児童生徒はどちらかの学級に在籍することになっている。通常の学級の基準(35人、40人)には特別支援学級在籍の児童生徒は含まれないため、日立市では、特別支援学級に在籍する児童生徒が通常の学級の活動(授業や行事)に参加することで35人を超える学級に非常勤講師を配置し、2人の教員で対応している。

(質問) (中小路学区)

国の手引きでは、小規模校でも地域の重要な拠点となっていれば残す選択もあるとなっている。日立市はどのように考えているか。

来年度策定する計画は、市民活動も含めた計画か。

(事務局)

個別に相談しながら進めていきたい。

教育委員会単独の計画である。しかし、並行して庁内で連絡調整を行っている。個々の担当課が関わりながら総合的に対応していく。

(意見) (中小路学区)

中小路学区に三代で暮らしている。母校がなくなってしまうかもしれないことは切実な思いだ。このような気持ちも考慮してほしい。

(意見・質問) (中小路学区)

統合になって通学距離が長くなれば、交通事故が増えるのではないか。

茨城県では、徒歩通学の小学生にヘルメットを着用させることを考えているようだが、県内で統廃合を進めていくためではないかと感じる。統合で学区が広がり通学距離が長くなるから、安全のためにヘルメット着用を進めているという認識にとらわれてしまった。子どもたちのためを考えるなら、ガードレールの整備など、ヘルメットの前にやることはある。

方針では触れていないが、市の基準は県の基準と同じ。アンケート結果で「小学校2～3学級、中学校3～4学級」としているが、今の学校と理想の学校のどちらがいいかという問いではない。これは理想であって、

自分の学校の話とは思っていない回答だ。市教委の意図が感じられる。

統合を進めるとコミュニティが消滅する。学区が広すぎて誰だか分からない。バス通学にしたら、地域から子どもが見えなくなる。住んでいる人の顔が見えなくなる。学校運営協議会制度は良い制度だと思うが、統合で心配されていることは、この制度の効果とは反対のことだ。教育だけで考えるのは心配だ。

学校は避難所でもある。東日本大震災のときは、中小路小は帰宅困難者の避難所となった。

児童数が減っているとしているが、いつの児童数で2学級と考えているのか。日立駅前地区はマンションも建ち人気がある。地区によって増減がある。

以前の検討委員会の資料には「規模の小さい順から」となっているが、今回の基本方針案には書かれていない。方針ができた場合に、順序は書かれるのか。チラシや市報の文面では、基準を「2学級」とするとか統廃合が進められるということを意識できない。教育委員会が切実に考えているなら、なぜ、市報に「2学級」と掲載しないのか。

行政が市民と対話する姿勢に欠けている。地区に出てきてほしい。小学校で説明をしてほしい。もっと人が集まると思う。日立市では、日立らしさを考えて、ふるさと納税の返礼品について、国の指示に従っていない。上から来た話だけでなく、日立らしさを考えてほしい。

(事務局)

数年前から全国的な流れで徒歩通学時のヘルメット着用が進んでいるが、日立市では制度化していない。適正配置とは関係はない。

国・県の学級数の基準は参考として紹介しているが、ゼロベースから検討した結果を提案している。決定していない事柄を市報に掲載することはできない。

仮に、学校が統合されてもコミュニティが消滅するとは考えていない。小規模化が進んで、児童生徒数が数人というような環境に子どもたちを置いてもいいのかということも含めて考えなければならない。学校運営協議会制度についても、基本方針素案の中で「地域とともにある学校づくり」として触れている。

学校がなくなることと防災機能がなくなことは結びつかない。避難所機能の存続については、防災担当課とも協議していく。

検討委員会での検討の過程をホームページで公開しているが、文言の整理なども行うので、最終的なものは変わる場合がある。検討の順番や個別の学校に関するスケジュールは方針には書かない。計画の中で検討していく。

(意見・質問) (中小路学区)

「適正配置」の意味が分からなかった。まさか自分の学校が該当しているとは思わなかった。入学予定の保護者などに丁寧に知らせてくれれば参加者が増えたと思う。平日の午後2時では参加しにくい。開催時間を考えてほしい。

統合のデメリットは何か。

中小路小に入学を決めて自宅を購入した人もいる。幼稚園選びから始まっている。統廃合されると分かっている学区には住まなくなってしまうの

ではないか。仮に、統合することになった場合、徒歩通学を考えると、中小路小は助川小と宮田小に分かれてしまうのではないかと不安がある。分かれてしまうことは避けてほしい。中学校はどこになるか不安である。

(事務局)

伝わりにくかったことは反省したい。工夫していろいろな方法で伝えていきたい。1、2月に開催した地域懇談会では、働いている方々も来ていただけるように午後7時からの開催にしたところ、家庭によって事情もあり、昼間にしてほしいという意見があったので、今回、平日の昼間、夜、休日の時間設定とした。今後も工夫していきたい。

統合のデメリットは、校区が広がり通学距離が長くなることと考えている。

住宅の購入などで不安をお持ちの方もいらっしゃると思われるので、長いスパンで見通しが持てるようにしていきたい。保護者や地域の不安を解消できるよう協議の場を設けていきたい。

(意見・質問) (中小路学区)

適正配置を検討する背景の背景は何か。お金がないからなのか、先生が足りないからなのか。公開していかないとならないのではないかと。

アンケートの結果の詳細を分かるように知らせてほしい。

「留意事項」についてだが、通学路の安全確保や校舎の安全確保は当然のことであり統廃合に関わりない。今までにもやって来なければならなかったことではないか。書き方が悪い。丁寧に進めていくとあるが、これまでもやってくるべきことではないか。児童や住民を大切にす方策が基本だろう。

(事務局)

検討の背景や経過は、随時ホームページで公開している。

アンケートの内容については、ホームページで御覧いただけるが、何らかの方法で詳しくお伝えしていきたい。御意見は参考にさせていただきたい。

基本方針に挙げている「留意事項」は、これからのことである。通学路の安全確保や校舎の安全確保は、今までも取り組んでいる。仮に統合ということになり、通学路が長くなった時の対応等について記載している。

(意見・質問) (中小路学区)

幼児がおり、現在中小路学区に自宅を新築中である。もっと早く知らせてほしかった。2～3年後に中小路小の廃校が決まったらやりきれない思いになる。

現在、中小路小に通っている子どもたちに気持ちを聞いてほしい。2クラスの学校がいいと思っているのか。

適正配置で学校を減らすのが前提なのか、今後の検討の中で変えることはできるのか。

(事務局)

学校を減らすことを前提に検討している訳ではない。

統廃合をしたからといって、学校と地域の関係がなくなってしまうとは考えていない。

(意見) (中小路学区)

合併して地域が広がっても、コミュニティがなくなる訳ではないという考え方は違うと思う。日立市のコミュニティ活動は、40年間築いてきた。お年寄りが新しいコミュニティの中に入れる訳ではない。新しいコミュニティに入って活動すればよいという考え方は違うと認識してほしい。

(意見) (坂本学区)

ずいぶん前から、坂本中はなくなるのではないかという噂がある。保護者にも子どもたちにも不安がある。長期スパンで考えるということだが、ずっとプレハブ校舎のまま、狭い校庭のままなのかと不安がある。実はなくなることが決まっていて、ずっとプレハブのままで過ごさなくてはならないのではないか、だから近隣の宅地が売れないのではないかと噂になっている。このような不安について、坂本地区での懇談会で説明してほしい。

(事務局)

坂本中学校は校舎の耐震強度が十分ではないので、仮設校舎に入っている。そういったところは、できるだけ優先順位を前倒しして、早期に結論を出したいということが、素案にある「校舎の安全確保」である。現段階では白紙だが、子どもたちの学習環境に影響があることは承知しているので、できるだけ早く結論を出したい。

(質問) (中小路学区)

早期に結論を出すとは、長いスパンで検討するとしたことに矛盾しているのではないか。実はもう決まっているのではないか。

(教育部長)

行政が計画を提示しても、計画通りにできていないところはたくさんある。また、ある程度の期間を見越して計画を検討しなければならない。そういった意味での長いスパンということである。関係者の理解が得られないのに、無理矢理進めていくことはできない。強引にやろうとは思っていない。その中であっても、適正配置計画の検討は急がなければならないところに来ているということだ。コミュニティ活動についても十分承知している。

(意見) (中小路学区)

協議している間に時間が経っていくと、子どもたちがかわいそうだ。校舎が整備されないのは、廃校が決まっているからではないかと考えてしまう。「学校がなくなるのか」という子どもの質問に答えられない。

(質問) (中小路学区)

1回目の懇談会で、このように意見が出るとは予想していなかったのではないか。

(教育部長)

想定はしていた。我々が提示することが、そのまま受け入れられるとは考えていない。しかし、教育委員会としては、検討しなければならないところに来ているということだ。

(意見) (中小路学区)

国から県、県から市へ(統合するように)下りてきているのではないか。

(教育部長)

そうではない。日立は遅いくらいで、県内でも半数以上が検討している。

(意見) (中小路学区)

日立市はコンパクトシティといっているが、学校を統廃合するとコンパクトシティにならない。スクールバスで通ったら、子どもの顔や地域住民の顔が見えない。地域に足を運んで、課題を把握してほしい。

アンケートの反対意見も載せてほしい。問題はもっとたくさんあるだろう。統廃合の計画が決まっているのだろうと思ってしまう。日立市なりの適正配置を考えたらいい。

(意見) (中小路学区)

アンケートの結果については、資料には良い結果しか書いていない。ホームページでも見られるのだから、(概要版に)「ホームページで見られる」と記載した方がよい。

主役は子どもだから、子どもの意見を聞いてほしい。高学年や中学生なら答えられるのではないか。

地域懇談会の開催など、アナウンスをしっかりとしてほしい。

(事務局)

御意見は参考にしていきたい。

(教育長)

本日はありがとうございました。

今後も、たくさんの御意見や御質問をお受けしていきたい。

現在、学校訪問をしているが、今の学校の状況が良くないと認識している訳ではない。地域の協力にも感謝している。

急激に社会が変化する中であって、このままズルズルとしている訳にはいかない、皆さんに全て受け入れられるものではないかもしれないが、やり取りをしておかなければいけないという思いで検討を始めた。

今後とも御協力をお願いしたい。

以上